事務事業 事後評価シート（令和5年度実施事業）

事務事業名	地域文化振興事業				事業通番	5506
					開始年度	令和3年度
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	
	項	社会教育費		目	文化振興費	
					担当係名	
					重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化芸術振興基本法
事務事業の概要	本町の伝統・芸術文化の振興を図るため、補助金交付を通じて各種文化団体の活動支援を行う。複合文化施設を町民の芸術文化活動の拠点・交流の場として位置づけ、芸術文化振興事業により、町の文化芸術の更なる振興を図る。
対象（誰、何を）	町民の芸術文化振興に寄与すると認められた文化団体
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	各団体活動を通して、芸術文化の振興を図る。
成果の考え方	文化団体を支援することにより、本町の芸術文化の振興が図られている。

【成果指標】		単位
A 補助金が交付される団体数		団体
B 文化団体協議会加盟団体数		団体

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度	7年度
事業費(千円)	969	1,939	2,182		
国庫支出金					
県支出金					
地方債					
その他	363	312	991		
一般財源	606	1,627	1,191		

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	2	2	2		
	1	2	2		
B	52	52	52		
	49	49	44		

(3) 活動実績及び成果

活動実績	芸術文化活動等を行う2つの団体に対し、生涯学習振興事業補助金を2件、670,000円を交付した。ハープコンサートを開催し、ホール活性化と音楽による芸術文化での地域づくりを図った。（コンサート来場者：町民等195人、アクティビティ：町内中学生120名）
成果	生涯学習振興事業補助金を交付し、団体活動を支援することにより、町総合美術展・ジュニア文芸表彰式を開催することができた。また、公共ホール音楽活性化事業の実施により本町の芸術文化の振興につながった。

3. 最終評価

成果の方向性	現状維持	(理由) 継続して芸術文化活動団体への支援を行い、芸術文化の振興を図る。
コストの方向性	現状維持	(理由) 補助金については、内容を精査し適正な支出に務める。また、公共ホール活性化事業については事業費の増加が見込まれるが、助成金を活用することにより現状を維持する。
今後の方向性	現状維持	(理由) 芸術文化の振興を図るため、継続して町民の芸術文化活動の支援を行うとともに、公共ホール音楽活性化事業を実施し、プロの音楽家の演奏に触れる機会を設ける等、町民の芸術文化に親しむ機会の創出に努める。

事務事業 事後評価シート（令和5年度実施事業）

事務事業名	遺跡調査・整備事業				事業通番	16760	
					開始年度	令和3年度	
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--	
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課	
予算科目	会計	一般会計		款	教育費	担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費	重点プロジェクト	

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法、福島県文化財保護条例、会津美里町文化財保護条例、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、会津美里町区域内開発に係る埋蔵文化財保護事前協議要綱					
事務事業の概要	町の埋蔵文化財を適切に管理し、保存や公開に努める。また、全国有数の重要な中世山城跡である向羽黒山城跡を保存し、永く後世へ伝えるため、これまで実施した調査整備事業の成果を踏まえ、「向羽黒山城保存活用計画」の策定を進める。（令和7年度策定予定）					
対象（誰、何を）	①向羽黒山城跡への来場者 ②開発等の対象となる遺跡地					
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	①向羽黒山城跡が整備・管理されることで、関心をもって城を訪れる方が増加する。 ②遺跡の記録が保存され、遺跡地の情報が蓄積される。					
成果の考え方	①向羽黒山城跡を広く周知するために、城に関する事業への参加者数と整備資料室への来場者数を指標とする。 ②開発事業等に伴う遺跡地の照会件数を指標とする。					
【成果指標】						単位
A	向羽黒山城跡事業等に関わりのあった方の人数					人
B	遺跡地の照会件数					件

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度	7年度
事業費(千円)	4,030	3,758	568		
国庫支出金	1,632	3,000			
県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	2,398	758	568		

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	500	1,000	1,200		
	1,039	1,266	1,292		
B	30	50	50		
	64	40	38		

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 向羽黒山城跡の来訪者に城の痕跡や残存地形が良く見えるように、下草刈りや枝払い等の環境整備を行った。また、令和6・7年度で策定する「向羽黒山城跡保存活用計画」についての事前準備を進めた。 埋蔵文化財包蔵地内における開発事業等の計画に伴う照会事案について対応した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 向羽黒山城跡には多くの来訪者が来ることもあり、環境整備を行ったことで、城の痕跡や残存地形を明瞭に見ていただくことができた。 埋蔵文化財包蔵地についての照会があることで、事前に各種開発計画を把握することができ、その後の対応についてスムーズに進められている。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	(理由) 郷土資料館での資料展示を通じて、町内の遺跡についての周知と情報発信を図るとともに、「向羽黒山城跡保存活用計画」の策定作業を進める。
コストの方向性	現状維持	(理由) 国庫補助金を活用し、向羽黒山城跡保存活用計画の策定作業を進め、また、町内の各種開発事業等に対する埋蔵文化財への対応が必要となっている。
今後の方向性	生産性改善	(理由) 現在計画されている各種開発事業区域における埋蔵文化財への対応を着実に進め、また、向羽黒山城跡保存活用計画の策定に向け、今後の保存活用の指針について検討を進める。

事務事業 事後評価シート（令和5年度実施事業）

事務事業名	文化財保存・活用事業				事業通番	16761		
					開始年度	令和3年度		
総合計画体系	政策No.	5	政策名	学びあい未来を拓く人づくり	終了年度	--		
	施策No.	5-4	施策名	地域文化の振興	担当課名	生涯学習課		
予算科目	会計	一般会計		款	教育費		担当係名	文化係
	項	社会教育費		目	文化財保護費		重点プロジェクト	該当

1. 事業の概要

法令根拠、条例等	文化財保護法・文化振興基本法・会津美里町歴史文化基本構想						
事務事業の概要	町の歴史文化を後世に継承するため、文化財の調査及び保存、活用事業の実施、郷土資料館の開設、町民の歴史文化継承活動の支援等を行う。						
対象（誰、何を）	町民						
意図 (対象がどのような状態になることを目指すか)	町民が、町の文化財や郷土資料を通じ、地域の歴史文化への関心及び文化財保護や活用の重要性を認識し、自分たちの地域に対する愛着や誇りを持つ機会を創出する。						
成果の考え方	講演会等による周知活動により、町民が地域の文化財や郷土資料に触れる機会をどの程度創出することができたのかを成果指標とする。						
【成果指標】							単位
A	講演会等により町の歴史文化に親しむ機会を持った町民の数						人
B	町民向けの文化財保護及び活用に関する周知の場を創出した件数						件

2. 事業の実績

(1) 事業費等の推移

区分	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度	7年度
事業費(千円)	161,519	170,461	28,129		
国庫支出金					
県支出金		5,693	3,643		
地方債	128,800	148,600	0		
その他	27,500	7,800	73		
一般財源	5,219	8,368	24,413		

(2) 指標の推移

上段：目標値 下段：実績値

成果指標	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A	1,250	1,250	1,300		
B	1,180	1,758	2,600		
	5	5	7		
	5	7	7		

(3) 活動実績及び成果

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化の発信のため、郷土資料館を開設し、6か月間で約900人の来館者を記録した。 歴史への興味関心を持つきっかけとして、勾玉作りイベントを開催し、25人の参加があった。 郷土資料館開館準備のため、資料展示や備品購入など施設整備に取り組み、令和5年10月に郷土資料館を開館した。また、愛称を募集し「さとりあ」に決定した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の結果、郷土資料館来館者の約96%が本町の歴史・文化の理解が深まったと回答した。 アンケート調査の結果、勾玉作りイベントの参加者全員が本イベントに満足し、歴史への関心が深まったと回答した。 愛称を募集したことにより、町内の外への資料館開館の周知が図られた。

3. 最終評価

成果の方向性	拡充	(理由) 郷土資料館から町の歴史や文化の情報を積極的に発信し、郷土資料を活用した学習の機会や各種事業を通じた体験活動の機会を確保し、文化財の保存活用に対する意識醸成を図っていく。
コストの方向性	拡大	(理由) 資料館の展示資料の充実や各種体験事業などを積極的に行っていくことと合わせ、歴史資料の受け入れが増大していることから資料の整理作業や資料を適切に保存していく環境整備も必要である。また、赤沢資料室等の解体事業に着手する必要がある。
今後の方向性	有効性改善	(理由) 郷土資料館のさらなる周知に努め、情報発信・情報収集・調査研究に積極的に取り組み、単なる展示施設ではなく、町の歴史と文化の拠点として適正な運営に努める。